

2006年2月9日

## フッ素系撥水撥油剤「アサヒガード」の環境適合型新品種「Eシリーズ」を発売開始

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、繊維・紙などに使われるフッ素系撥水撥油剤「アサヒガード」の新品種として「アサヒガードEシリーズ（AsahiGuard E-SERIES）」を開発、2006年1月に当社千葉工場内に大型専用製造設備を立上げ、ビジネスパートナーである明成化学工業株式会社（本社：京都市）とともに、日本・米国・欧州各地でマーケティング活動に入りました。この専用設備の能力は、現行のアサヒガード製造能力の約25%に相当します。

アサヒガードはフッ素系撥水撥油剤の草分けとして1971年に販売を開始、繊維処理剤としてだけでなく、紙・不織布・皮革などさまざまな分野において幅広く使われています。特に、高い撥水撥油性とその耐久性は、パラフィン系やシリコン系撥水剤ではカバーできないフッ素系撥水撥油剤固有の強みとしてお客様から幅広い支持をいただいています。

米国環境保護庁（USEPA）は、野生生物や人の血液を含め広く環境から検出されているパーフロロオクタン酸（PFOA：Perfluoro Octanoic Acid）の安全性に関する予備リスク調査報告書を2003年3月に公表しました。加えて本年1月25日には、PFOAとPFOA類縁物質、及びこれらの前駆体物質の環境中への排出削減と製品中の含有量削減計画への参加を、フッ素樹脂・フッ素系撥水撥油剤メーカー各社に提案しました。日本を含め他の国でもこれら化合物への関心が高まりつつあります。

当社ではPFOAへの懸念が公表されて以来、このような各国行政庁の動きと、より環境に優しい製品を求めお客様のご要望にお応えするべく新製品の開発に着手し、PFOAとPFOA類縁物質、及びこれらの前駆体物質を含まない、高性能な繊維用・紙用撥水撥油剤の事業化に成功しました。これらは国内化審法・米国有害物質規制法（TSCA）の認証をすでに取得し、さらに適用分野を広げるべく、欧州・カナダを含め登録申請作業を進めています。また、食品接触用途での使用も可能とすべく作業中です。

当社は、中期経営計画“JIKKO-2007”において、フッ素・スペシャリティ事業を化学品カンパニーの成長事業として位置づけ、当社の強みを活かせる製品群への注力を図ることとしています。今後とも、ますます多様化するお客様ニーズに対応した高性能で環境に優しいフッ素化学製品の事業化を推進し、お客様に高品質なソリューションをご提供していく所存です。

以上

本件に関するお問い合わせ先：旭硝子（株）広報・IR室長 川上 真一  
（担当：箕田 TEL 03-3218-5408 E-mail [info-pr@agc.co.jp](mailto:info-pr@agc.co.jp)）

## <用語解説>

### 1. PFOA

PFOA はフッ素樹脂の製造時に重合乳化剤として使用されるほか、フッ素系撥水撥油剤中にごく微量不純物として含まれています。

PFOA は野生生物や人の血液を含め広く環境から検出されている物質ですが、米国環境保護庁（USEPA）による予備リスク調査や 2005 年 1 月に公表されたドラフトリスク評価報告書の発表段階では、PFOA の人体への安全性評価結果はまだ明らかになっていません。

### 2. PFOA 類縁物質

PFOA と類似の構造で、炭素数のより大きな物質。例えば炭素数が 9 のパーフルオロノナン酸、炭素数が 10 のパーフルオロデカン酸等の総称です。

### 3. 化審法

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律。

### 4. 前駆体物質

分解により別の物質に変化する物質で、今回の場合では PFOA や PFOA 類縁物質に変化する物質。